

■ 公認会計士試験に挑戦する後輩たちへ

会計士入門講座を受講したきっかけ、また公認会計士を目指そうと思ったきっかけを教えてください。

中島 私は高校まで野球に打ち込んできましたが、大学進学を機に野球以外のことに挑戦してみたいと考えようになりました。将来を考えたとき、何か強みになる資格を取得しておくのがよいのではないかと思います、大学の講座案内で公認会計士という職業を知り、目指すようになりました。

小川 大学に会計士講座があることは知っていた、まずは受けてみよう、という気持ちでガイダンスに参加しました。ガイダンスに参加して、大学の支援を受けながら公認会計士を目指すことを知り、公認会計士の収入面や安定性、会社の経営者等と仕事ができる点に魅力を感じて目指そうと思いました。



仕事の魅力やモチベーション、働いて感じたことについて教えてください。

小川 一番のモチベーションは報酬です。努力や専門性が正当に評価され、得た収入を自分のやりたいことに使えるのは大きな魅力だと思います。

また、この仕事をやっていてよかったと感じるのは、会計の専門知識を使って企業を支援できたときに大きなやりがいを感じます。

矢作 年次が上がるにつれて、監査全体をスムーズに進める役割も増えてきます。論点を早めに整理し、クライアント(顧客)やチーム、パートナー(上司)と調整しながら、無事に監査報告書を発行できたときは、「今年もやり切った」という達成感があります。

モチベーションという点では、クライアントによっては全国各地へ出張に行く機会があり、現地の美味しいご飯を食べる、というのも楽しみの一つです。

石岡 監査法人の事務所は広くて綺麗なところが多く、眺めも良く、整ったオフィススペースで働ける点は、大きな魅力の一つだと思います。一方で、実際に仕事を始めてみて感じたギャップとしては、Excelをはじめとするパソコン作業が想像以上に多いことでした。業務の多くはExcelを使って進めるため、合格後にスムーズに仕事を始めるためにも、事前にExcelの基礎を身につけておくことをおすすめします。

2年目からは会計士上級講座で大原学園での学習に移行しますが、大原学園に通ってどのような変化がありましたか。

中島 生田校舎から大原学園東京水道橋校までの通学時間は1時間ほどかかりますが、移動時間はテキストの読み込みなど理論科目の学習に充て、時間を有効に使うことができました。また、大原学園では専修大学生以外の方々と一緒に学ぶので、良い刺激を受けられる環境だと思います。

小川 一番大きく変わったところは、質問ブースをいつでも利用できる点です。疑問点はすぐに講師に質問し、解消できるのは非常に大きなメリットでした。



現在、会計士入門講座を受講している学生へ一言お願いします。

野口 今は計算力をしっかり固めることが一番大切だと思います。計算力が身につけば、短答式試験も論文式試験も大きな武器になります。

中島 会計士試験はこれから長丁場になります。だからこそ、毎日コツコツ続けることが一番大事です。継続することを大切にして頑張ってください。

小川 この試験は、やり切れば誰でも合格できる試験だと思います。しっかり勉強時間を確保することを意識して、ぜひ最後まで取り組んでください。

石岡 試験勉強は正直つらいこともありますが、今では資格を取って本当によかったと心から感じています。気持ちが折れそうときは、同じ講座で学ぶ仲間と励まし合いながら頑張ってください。

矢作 会計士試験は、やり方さえ間違えなければ誰でも合格できる試験です。もし成績が伸び悩んでいたなら、勉強方法を見直すことも大切です。一人で抱え込まず、ぜひ講師に相談してください。合格後には明るい未来が待っています。



勉強のモチベーションとはどのように向き合っていましたか。

野口 試験勉強を続けていると、思うように点数が伸びず、モチベーションが下がってしまうこともあります。そんなときこそ、一人で抱え込まず、友人と気持ちや悩みを共有することが大切です。誰かと話すことで気持ちが軽くなり、新たな気づきや前向きな気持ちを取り戻し、勉強へのモチベーションを維持することができました。

矢作 私は将来の目標が明確だったので、モチベーションに左右されないよう、勉強を仕組み化していました。試験日から逆算して月・週・日単位で計画を立て、無理のないスケジュールに落とし込むことを意識しました。この習慣を続けることで、気分に関係なく勉強に取り組めるようになりました。



左から矢作匠さん(2019年合格・商学部会計学科卒業・監査法人勤務)、石岡里果さん(2020年合格・経営学部経営学科卒業・監査法人勤務)、小川尚暉さん(2021年合格・商学部マーケティング学科卒業・監査法人勤務)、中島京介さん(2025年合格・経営学部経営学科3年次在学中)、野口凜生さん(2025年合格・経済学部生活環境経済学科4年次在学中)



初学者でも安心して学べる環境

経営学部 経営学科3年 (静岡・藤枝明誠高校出身)

中島 京介さん

私は高校まで野球を続けてきましたが、野球は高校で区切りをつけ、大学進学を機に新しいことへ挑戦してみようと考えていました。入学当初は明確な目標がなかったため、将来につながる資格取得を検討していたところ、専修大学の会計士講座を知りました。公認会計士は多様なキャリアパスを歩

むことができ、自分の将来の選択肢を大きく広げられる点に魅力を感じ、挑戦を決意しました。正直に言えば、私は高校・大学ともに推薦で進学したため、本格的に勉強へ取り組んだ経験が少なく、簿記も初学者であったため不安がありました。しかし、会計士講座は基礎から丁寧に学ぶため、初学者でも安心して学べる環境が整っています。また、受講料の一部を大学が補助する奨励生制度や、公認会計士試験在学中合格後に支給される奨学金など、費用面でのサポートが非常に手厚いことも魅力の一つです。何かに本気で取り組む経験は、必ず将来の糧になります。公認会計士試験に合格することは楽な道のりではありませんが、挑戦してみることはそれ以上に大きな価値があります。ぜひ専修大学で、新たな一歩を踏み出してみてください。



充実したサポート体制

経済学部 生活環境経済学科4年 (千葉・中央学院高校出身)

野口 凜生さん

私は専修大学の会計士講座のパンフレットをきっかけに公認会計士を目指すようになりました。高校までは、ずっとサッカーをしており受験勉強とは無縁だったため、公認会計士という難関資格を取得することができるのかという不安がありました。しかし、専修大学の会計士入門講座では簿記を基礎からわかりやすく教えてくださったため、簿記とは

全く無縁であった私でも勉強を継続することができました。私自身、会計士講座の講師の方々には、普段の学習方法から試験全体の学習計画まで親身になってサポートしていただきました。このことが専修大学生の合格実績の高さの要因の1つになっているのだと思っています。また、専修大学では、2年目以降の講座受講料の大部分を大学が補助する「奨励生制度」や短答式試験に合格している3年次生を対象とした「会計士特別プログラム」、さらには、公認会計士試験の合格者に対する奨学金の支給制度など、費用の面で手厚いサポートがあり、公認会計士試験に合格するための環境が非常に整っていると思います。公認会計士試験は難しい試験ですが、正しい努力を継続すれば、大学に入学してから簿記の勉強を始める人でも十分に合格することのできる試験です。皆様もぜひ専修大学で公認会計士を目指してみてください。



専修大学公認会計士試験合格者実績

2025年度	18名 (9名)
2024年度	12名 (5名)
2023年度	29名 (11名)
2022年度	21名 (11名)
2021年度	17名 (9名)

※掲載の数字はエクステンションセンター調べです。※()内の人数は在学生合格者数です。